

[分類] 普及技術

[成果名] 移植水稲用初中期除草剤ウィナーLフロアブル、ウィナーLジャンボ、ゴエモン1キロ粒剤、月光ジャンボ、ナギナタ豆つぶ250、ゼータワン1キロ粒剤、クサトリーBSXフロアブルL、ホットコンビフロアブルは水田雑草防除に有効である

[要約] 移植水稲用初中期除草剤8剤は、ノビエなどの一年生雑草から多年生雑草まで幅広く有効な成分を含み、効果的に水田雑草防除が可能である。

[担当] 農業試験場作物部・農業技術課

[部会] 作物部会

1 背景・ねらい

水稲用初中期除草剤8剤は、新規開発された有効成分イプフェンカルバゾンなどを含み、ノビエなどの一年生雑草及び多年生雑草に対する除草効果が確認できたため、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

普及に移す除草剤の特徴と使用方法を有効成分別に以下の通り示す。

(1) 新規成分イプフェンカルバゾンを含む下記3剤は、田植え同時処理が可能で、ノビエ等一年生雑草全般からホタルイ等多年生雑草に対して効果が高い。

除草剤名	使用時期	10a 当たり使用量
ウィナーLフロアブル	移植直後～ノビエ 2.5 葉期	500ml
ウィナーLジャンボ	移植直後～ノビエ 2.5 葉期	500g (50g×10 パック)
ゴエモン1キロ粒剤	移植直後～ノビエ 2.5 葉期	1 kg

(2) メタゾスルフロンを含有する下記1剤は、ノビエ等一年生雑草全般からホタルイ等多年生雑草まで幅広く有効である。オモダカ、クログワイなど難防除雑草に対する効果も高い。

除草剤名	使用時期	10a 当たり使用量
月光ジャンボ	移植後3日～ノビエ3葉期	400g (40g×10 パック)

(3) ピリミスルファンを含有する下記1剤は、ノビエ等一年生雑草全般からホタルイ等多年生雑草まで幅広く有効である。

除草剤名	使用時期	10a 当たり使用量
ナギナタ豆つぶ250	移植後3日～ノビエ2.5葉期	0.25kg

(4) 下記3剤は、既存成分に替えてより効果の高い成分の配合や同等の除草効果で成分数の削減がなされた。

除草剤名	使用時期	10a 当たり使用量
ゼータワン1キロ粒剤	移植直後～ノビエ3葉期	1 kg
クサトリーBSXフロアブルL	移植直後～ノビエ2.5葉期	500ml
ホットコンビフロアブル	移植直後～ノビエ2葉期	500ml

農薬登録内容

ウィナーLフロアブル

[一般名および成分含有量] イプフェンカルバゾン 5.0%、ブロモブチド 18.0%、ベンスルフロンメチル 1.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] イプフェンカルバゾン：－、ブロモブチド：A類、ベンスルフロンメチル：A類

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 26 年 10 月 2 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、アオミドロ、藻類による表層剥離	原液湛水散布	砂壤土～ 埴土	移植直後～ノビエ 2.5 葉期 (ただし、移植後 30 日まで)	500ml	1 回

ウィナーLジャンボ

[一般名および成分含有量] イプフェンカルバゾン 5.0%、ブロモブチド 18.0%、ベンスルフロンメチル 1.02%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] イプフェンカルバゾン：－、ブロモブチド：A類、ベンスルフロンメチル：A類

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 26 年 10 月 2 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、アオミドロ、藻類による表層剥離	水田に小包装 (パック) のまま投げ入れる。	砂壤土～ 埴土	移植直後～ノビエ 2.5 葉期 (ただし、移植後 30 日まで)	500g (50g×10 パック)	1 回

ゴエモン1キロ粒剤

[一般名および成分含有量] イプフェンカルバゾン 2.5%、イマゾスルフロン 0.9%、ブロモブチド 9.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] イプフェンカルバゾン：－、イマゾスルフロン：A類、ブロモブチド：A類

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 26 年 10 月 2 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ	湛水散布	砂壤土～ 埴土	移植直後～ノビエ 2.5 葉期 (ただし、移植後 30 日まで)	1 kg	1 回

月光ジャンボ

[一般名および成分含有量] カフェンストロール 7.5%、ダイムロン 37.5%、メタゾスルフロン 2.5%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] カフェンストロール：B類、ダイムロン：A類、メタゾスルフロン：－

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 26 年 10 月 2 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	砂壤土～ 埴土	移植後 3 日～ノビエ 3 葉期(ただし、移植後 30 日まで)	400g(40g×1 パック)	1 回

ナギナタ豆つぶ 250

[一般名および成分含有量] オキサジクロメホン 1.6%、ピリミスルファン 2.2%、ベンゾビシクロン 12.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] オキサジクロメホン：A類、ピリミスルファン：A類、ベンゾビシクロン：A類

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 26 年 10 月 2 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ	湛水散布又は湛水周縁散布	砂壤土～ 埴土	移植後 3 日～ノビエ 2.5 葉期(ただし、移植後 30 日まで)	0.25kg	1 回

ゼータワン 1 キロ粒剤

[一般名および成分含有量] プロピリスルフロン 0.9%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] プロピリスルフロン：A類

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 26 年 10 月 2 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ	湛水散布	砂壤土～ 埴土	移植直後～ノビエ 3 葉期(ただし、移植後 30 日まで)	1 kg	1 回

クサトリー B S X フロアブル L

[一般名および成分含有量] フェントラザミド 5.8%、 bensulfuron methyl 1.0%、ベンゾビシクロン 3.8%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] フェントラザミド：B類、bensulfuron methyl：A類、ベンゾビシクロン：A類

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 26 年 10 月 2 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層剥離	原液湛水散布 田植同時散布機で施用	砂壤土～ 埴土	移植直後～ノビエ 2.5 葉期(ただし、移植後 30 日まで)	500ml	1 回

ホットコンビフロアブル

[一般名および成分含有量] テニルクロール 4.0%、ベンゾビスシクロン 4.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] テニルクロール：B類、ベンゾビスシクロン：A類

[対象作物に対する適登録状況] (平成26年10月2日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ	原液湛水散布 田植同時散布機で施用	砂壤土～ 埴土	移植直後～ノビエ2 葉期(ただし、移植後 30日まで)	500ml	1回

3 利用上の留意点

- (1) 使用上の留意事項は、「農作物病害虫・雑草防除基準(長野県)」の除草剤の使用方法(初中期除草剤)を参照する。
- (2) ベンゾビスシクロン含有剤のナギナタ豆つぶ250、クサトリーBSXフロアブルL、ホットコンビフロアブルは本県育成の多収性専用品種「ふくおこし」、「ほそおもて」に対して薬害(白化～枯死)が生じることがある。また、(独)農研機構育成の一部の多収水稲品種にも薬害が生じることがある。(平成23年度(2011年度)普及に移す農業技術(技術情報)「水稲品種「ふくおこし」、「ほそおもて」の4-HPPD阻害型除草剤に対する感受性」参照。)

4 対象範囲

県下の水稲作付地帯約 32,000ha

5 具体的データ

(1) ウィナーLフロアブル

ア 平成23年に農業試験場が実施した試験では、移植直後～ノビエ2.5葉期処理でノビエ等一年生雑草から多年生雑草まで高い除草効果が認められた。クログワイは抑制し、オモダカは残存した(表1)。薬害は認められなかった(データ略)。

表1 ウィナーLフロアブルの雑草防除効果^{a)} (平成23年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガヤ ツリ	一年生 広葉 ^{c)}	マツバイ	ホタルイ ^{d)}	オモダカ	クログワ イ ^{d)}	合計
ウィナーLフロアブル	+0日(5/14) 500ml	0	0	t	0	0	73	4	1
	+12日(5/26、 ノビエ2.5葉 期)500ml	0	0	t	0	t	60	18	1
(比較)トップガンLフ ロアブル	+5日(5/19) 500ml	t	0	t	0	t	80	34	2
(比較)ソルネット1キ ロ粒剤→ザーバックス DX1キロ粒剤	+0日→+20日 (5/14→6/3) 1kg→1kg	0	0	0	0	t	4	0	t
無処理	—	29.2	11.4	23.2	0.4	106.2	1.2	0.7	172.3

a) 除草剤各処理区の数値は対無処理区比(%), 無処理区は乾物重(g/m²), 発生はあるものの、四捨五入して0になる場合を「t」として示した。

b) 処理時期の+は移植後日数。

c) コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d) 塊茎埋め込み試験。

試験方法: 試験場所は農業試験場水田ほ場(標高340m、細粒グライ土、軽埴土)。品種は「あきたこまち」。中苗3本植(22.2株/m²)。代かきは5月9日、移植は5月14日。1区7.2m²、2区制。

調査方法: 移植40日後(6/23)に50×50cmの枠サンプリングにて調査した。

イ 平成 26 年に諏訪市の現地ほ場で実施した試験では、オモダカが多発ほ場で、オモダカがや
や残存したが、ノビエ等一年生雑草、ホタルイ、クログワイに対する除草効果は高く、初中期
剤としての実用性が確認された（表 2）。薬害は認められなかった（データ略）。

表 2 ウィナーLフロアブルの雑草防除効果^{a)} (平成 26 年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量(/10a)	ノビエ	ホタルイ	オモダカ	クログワイ	合計
ウィナーLフロアブル	+5日(5/19)	500ml	0	0	57	0	10
(比較)パッチリ1キロ粒剤 ^{c)}	+5日(5/19)	1kg	t	0	t	6	t
無処理	—	—	6.2	t	1.4	0.1	7.7

a)、b)は表1と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：諏訪農業改良普及センターで実施。試験場所は諏訪市高島（標高 770m、灰色低地土、壤土）。中苗、機械移植。入水は5月7日、代かきは5月8日、移植は5月14日。1区16a、反復なし。

調査方法：移植33日後(6/16)に50×50cmの枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は1カ所の調査を行った。

(2) ウィナーLジャンボ

ア 平成 23 年に農業試験場で実施した試験では、移植直後～ノビエ 2.5 葉期処理での除草効果
は高く、難防除雑草のオモダカ、クログワイにも高い除草効果が認められた（表 3）。薬害は
認められなかった（データ略）。

表 3 ウィナーLジャンボの雑草防除効果^{a)} (平成 23 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{c)}	マツバイ	ホタルイ	オモダカ ^{d)}	クログワ イ ^{d)}	合計
ウィナーLジャンボ	+0日(5/14) 500g	0	0	t	0	0	18	0	t
	+12日(5/26、 ノビエ2.5葉 期)500g	t	0	t	0	t	16	0	t
(比較)トップガンLフ ロアブル	+5日(5/19) 500ml	t	0	t	0	t	80	34	2
(比較)ソルネット1キ ロ粒剤→ザーバック スDX1キロ粒剤	+0日→+20日 (5/14→6/3) 1kg→1kg	0	0	0	0	t	4	0	t
無処理	—	29.2	11.4	23.2	0.4	106.2	1.2	0.7	172.3

a)、b)は表1と同じ。

c)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d)塊茎埋め込み試験。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場（標高 340m、細粒グライ土、軽埴土）。品種は「あきたこまち」。中苗3本植(22.2/㎡)。代かきは5月9日、移植は5月14日。1区7.2㎡、2区制。

調査方法：移植40日後(6/23)に50×50cmの枠サンプリングにて調査した。

イ 平成 26 年に上田市の現地ほ場で実施した試験では、ノビエ等一年生雑草に高い除草効果が認
められた（表 4）。薬害は認められなかった（データ略）。

表 4 ウィナーLジャンボの雑草防除効果^{a)} (平成 26 年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量(/10a)	ノビエ	一年生広葉	ホタルイ	合計
ウィナーLジャンボ	+10(6/10)	500g	0	t	0	t
(比較)ヤイバジャンボ ^{c)}	+10(6/10)	250g	4	0	0	3
無処理	—	—	8.3	1.4	0	9.7

a)、b)は表1と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：上小農業改良普及センターで実施。試験場所は上田市泉田（標高 420m、灰色低地土、埴壤土）。中苗、機械移植。入水は5月24日、代かきは5月24日、移植は5月30日。1区2.5a、反復なし。

調査方法：移植35日後(7/4)に50×50cmの枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は1カ所の調査を行った。

(3) ゴエモン1キロ粒剤

ア 平成26年に農業試験場で実施した試験では、移植直後～ノビエ2.5葉期処理でノビエ等一年生雑草やホタルイに高い除草効果が認められた(表5)。薬害は認められなかった(データ略)。

表5 ゴエモン1キロ粒剤の雑草防除効果^{a)} (平成26年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{c)}	ホタルイ	(オモダ カ) ^{d)}	(クログ ワイ) ^{d)}	合計
ゴエモン1キロ粒剤	+0日(5/14) 1kg	0	0	0	0	(36)	(0)	0
	+12日(5/26、 ノビエ2.5葉期) 1kg	2	0	0	0	(8)	(1)	t
(比較) トップガン Lフロアブル	+5日(6/19) 500ml	0	0	0	1	29	15	3
(比較) エリジャン 乳剤→マメットSM1 キロ粒剤	+0日→+20日 (5/14→6/3) 300ml→1kg	0	0	0	0	(15)	(12)	0
無処理	—	8.0	0.5	30.8	5.2	(14.0)	(6.0)	44.5

a)、b)は表1と同じ。

c)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d)塊茎埋め込み試験。オモダカ、クログワイは適用外のため合計より除外。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高340m、細粒グライ土 軽塩土)。品種は「あきたこまち」。中苗3本植(22.2株/㎡)。代かきは5月9日、移植は5月14日。1区7.2㎡、2区制。

調査方法：移植40日後(6/23)に50×50cmの枠サンプリングにて調査した。

イ 平成26年に安曇野市の現地ほ場で実施した試験では、ノビエ等一年生雑草から多年生雑草まで高い除草効果が認められた(表6)。薬害は認められなかった(データ略)。

表6 ゴエモン1キロ粒剤の雑草防除効果^{a)} (平成26年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量 (/10a)	ノビエ	一年生広葉	マツバイ	ホタルイ	合計
ゴエモン1キロ粒剤	+5(5/19)	1kg	0	t	0	0	t
(比較) バッチリジャンボ ^{c)}	+5(5/19)	400g	0	t	0	0	t
無処理	—	—	0.6	26.0	0.6	2.6	29.8

a)、b)は表1と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：松本農業改良普及センターが実施。試験場所は安曇野市豊科下鳥羽(標高540m、沖積土、砂壤土)。中苗、機械移植。

入水は5月6日、代かきは5月11日、移植は5月14日。1区25a、反復なし。

調査方法：移植40日後(6/23)に50×50cmの枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は1カ所の調査を行った。

(4) 月光ジャンボ

ア 平成 24 年に農業試験場で実施した試験では、クログワイに対して除草効果が高く、移植後 3 日処理でオモダカがやや残存したが実用上問題なく、移植後 3 日～ノビエ 3 葉期処理で高い除草効果が認められた (表 7)。葉害は認められなかった (データ略)。

表 7 月光ジャンボの雑草防除効果^{a)} (平成 24 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量 (/10a)	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{c)}	ホタルイ	オモダ カ ^{d)}	クログ ワイ ^{d)}	合計
月光ジャンボ	+ 3 日 (5/17) 400g	t	0	t	0	33	1	t
	+14 日 (5/28、ノビ エ 3 葉期) 400g	t	0	t	1	18	0	t
(比較) トップガン Lフロアブル	+ 5 日 (5/19) 500ml	t	0	t	1	18	0	t
(比較) エリジャン 乳剤→マメット SM 1 キロ粒剤	+ 0 日→+20 日 (5/14→6/3) 300ml→1 kg	0	0	0	t	(19)	(3)	t
無処理	—	137.8	0.5	5.9	16.4	0.5	4.8	165.9

a)、b)は表 1 と同じ。

c) コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d) 塊茎埋め込み試験。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場 (標高 340m、細粒グライ土、軽埴土)。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植 (22.2 株/m²)。代かきは 5 月 11 日、移植は 5 月 14 日。1 区 7.2 m²、2 区制。

調査方法：移植 40 日後 (6/23) に 50×50cm の枠サンプリングにて調査した。

イ 平成 26 年に辰野町の現地ほ場で実施した試験では、ノビエ等一年生雑草からウリカワ、オモダカ等難防除雑草に高い除草効果が認められた (表 8)。葉害は認められなかった (データ略)。

表 8 月光ジャンボの雑草防除効果^{a)} (平成 26 年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量 (/10a)	ノビエ	一年生広葉	ウリカワ	オモダカ	合計
月光ジャンボ	+ 4 (5/23) 400g	t	t	t	t	t
(比較) ベストパートナー ジャンボ ^{c)}	+ 4 (5/23) 250g	30	t	t	(60)	20
無処理	—	7.8	1.0	0.2	0.2	9.2

a)、b)は表 1 と同じ。

c) 比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：上伊那農業改良普及センターが実施。試験場所は辰野町羽場 (標高 730m、灰色低地土、砂壤土)。中苗、機械移植。入水は 5 月 8 日、代かきは 5 月 14 日、移植は 5 月 17 日。1 区 29a、反復なし。

調査方法：移植 39 日後 (6/25) に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

(5) ナギナタ豆つづ 250

ア 平成 25 年に農業試験場で実施した試験では、移植後 3 日～ノビエ 2.5 葉期処理でノビエ等一年生雑草からホタルイまで高い除草効果が認められた (表 9)。薬害は認められなかった (データ略)。

表 9 ナギナタ豆つづ 250 の雑草防除効果^{a)} (平成 25 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量 (/10a)	ノビエ	タマガヤ ツリ	一年生広葉 ^{c)}	ホタルイ	(クログワイ) ^{d)}	合計
ナギナタ豆つづ 250	+3 日 (5/17) 0.25kg	0	0	0	0	(5)	0
	+12 日 (5/26、ノビエ 2.5 葉期) 0.25kg	0	0	0	0	(1)	0
	(比較) トップガン L フロア ブル 500ml	0	0	0	0	t	t
	(比較) エリジャン乳剤→マ メット SM1 キロ粒剤 300ml→1 kg	+0 日→+20 日 (5/14→6/3)	0	0	0	t	(0)
無処理	—	8.3	7.6	73.3	90.0	(0.7)	179.2

a)、b) は表 1 と同じ。

c) コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d) 塊茎埋め込み試験。クログワイは適用外のため合計から除外。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場 (標高 340m、細粒グライ土、軽植土)。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植 (22.2 株/m²)。代かきは 5 月 10 日、移植は 5 月 14 日。1 区 7.2 m²、2 区制。

調査方法：移植 40 日後 (6/23) に 50×50cm の枠サンプリングにて調査した。

イ 平成 26 年に佐久市の現地ほ場で実施した試験では、ノビエ等一年生雑草は除草効果が高く、ホタルイが残存したが、初中期剤として実用的な除草効果が認められた (表 10)。薬害は認められなかった (データ略)。

表 10 ナギナタ豆つづ 250 の雑草防除効果^{a)} (平成 26 年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量 (/10a)	ノビエ	一年生広葉	ホタルイ	(オモ ダカ)	合計
ナギナタ豆つづ 250	+3 (5/29)	0.25kg	0	8	33	(0)	5
(比較) トップガン L フロア ブル ^{c)}	+3 (5/29)	500ml	0	0	9	(0)	5
無処理	—	—	0.7	0.2	0.1	(0.1)	1.0

a)、b) は表 1 と同じ。

c) 比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：佐久農業改良普及センターが実施。試験場所は佐久市本新町 (標高 690m、灰色低地土、壤土)。中苗、機械移植。入水は 5 月 15 日、代かきは 5 月 23 日、移植は 5 月 26 日。1 区 30a、反復なし。

調査方法：移植 32 日後 (6/27) に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

(6) ゼータワン1キロ粒剤

ア 平成23年に農業試験場で実施した試験では、移植直後～ノビエ3葉期処理でノビエ等一年生雑草、ホタルイ等多年生雑草及びクログワイ等難防除雑草に高い除草効果が認められた(表11)。薬害は認められなかった(データ略)。

表11 ゼータワン1キロ粒剤の雑草防除効果^{a)} (平成23年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガヤ ツリ	一年生 広葉 ^{c)}	マツバイ	ホタルイ	オモダカ ^{d)}	クログワイ ^{d)}	合計
ゼータワン 1キロ粒剤	+0日(5/14) 1kg	t	0	0	0	0	6	0	t
	+14日 (5/28、ノビエ 3葉期)1kg	t	0	t	0	1	16	0	t
(比較)トップガンLフ ロアブル	+5日(5/19) 500ml	t	0	t	0	t	80	34	2
(比較)ソルネット1キ ロ粒剤→ザーベックス DX1キロ粒剤	+0日→+20日 (5/14→6/3) 1kg→1kg	0	0	0	0	t	4	0	t
無処理	—	29.2	11.4	23.2	t	106.2	1.2	0.7	171.9

a)、b)は表1と同じ。

c)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d)塊茎埋め込み試験。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高340m、細粒グライ土、軽埴土)。品種は「あきたこまち」。中苗3本植(22.2株/m²)。代かきは5月9日、移植は5月14日。1区7.2m²、2区制。

調査方法：移植40日後(6/23)に50×50cmの枠サンプリングにて調査した。

イ 平成26年に長野市の現地ほ場で実施した試験では、オモダカ等難防除雑草にも高い除草効果が認められた(表12)。薬害は認められなかった(データ略)。

表12 ゼータワン1キロ粒剤の雑草防除効果^{a)} (平成26年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量 (/10a)	ノビエ	一年生広葉	ホタルイ	オモダカ	合計
ゼータワン1キロ粒剤	+5(6/30)	1kg	0	0	0	0	0
(比較)エーワンフロアブル ^{c)}	+5(6/30)	500ml	0	0	0	0	0
無処理	—	—	11.2	0.3	0.4	11.9	23.8

a)、b)は表1と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：長野農業改良普及センターが実施。試験場所は長野市鬼無里(標高800m、グライ台地土、埴土)。中苗、機械移植。

入水は5月20日、代かきは5月21日、移植は5月25日。1区10a、反復なし。

調査方法：移植36日後(6/30)に50×50cmの枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は1カ所の調査を行った。

(7) クサトリーBSXフロアブルL

ア 平成24年に農業試験場で実施した試験では、移植直後～ノビエ2.5葉期処理でノビエ等一年生雑草から多年生雑草まで高い除草効果が認められた(表13)。薬害は認められなかった(データ略)。

表13 クサトリーBSXフロアブルLの雑草防除効果^{a)} (平成24年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{c)}	マツ バイ	ホタル イ	(オモダ カ) ^{d)}	(クログ ワイ) ^{d)}	合計
クサトリーBSXフ ロアブルL	+0日(5/14) 500ml	0	0	0	0	0	(33)	(0)	0
	+12(5/26、 ノビエ2.5葉期) 500ml	0	0	t	0	0	(21)	(13)	t
	(比較) トップガンL フロアブル 500ml	+5日(5/19)	0	0	9	0	t	65	7
(比較) エリジャン乳 剤→マメットSM1キ ロ粒剤	+0日→+20日 (5/14→6/3) 300ml→1kg	0	0	0	0	t	(22)	(0)	t
無処理	—	20.7	2.7	28.0	0.2	85.1	(1.1)	(0.8)	136.7

a)、b)は表1と同じ。

c)コナギ、アゼナ、ミヅハコベ、キカシグサの合計。

d)塊茎埋め込み試験。オモダカ、クログワイは適用外のため合計から除外。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高340m、細粒グライ土、軽埴土)。品種は「あきたこまち」。中苗3本植(22.2株/㎡)。代かきは5月9日、移植は5月14日。1区7.2㎡、2区制。

調査方法：移植40日後(6/23)に50×50cmの枠サンプリングにて調査した。

イ 平成26年に木祖村の現地ほ場で実施した試験では、ノビエ等一年生雑草から多年生雑草まで高い除草効果が認められた(表14)。薬害は認められなかった(データ略)。

表14 クサトリーBSXフロアブルLの雑草防除効果^{a)} (平成26年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量 (/10a)	ノビエ	一年生広葉	ホタルイ	(オモダ カ) ^{d)}	合計
クサトリーBSXフロア ブルL	+5(5/30)	500ml	0	t	0	(0)	t
(比較) スパークスター粒剤 ^{c)}	+5(5/30)	3kg	0	8	0	0	5
無処理	—	—	2.0	3.5	0.9	(0.2)	6.4

a)、b)は表1と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

d)適用外のため合計から除外。

試験方法：木曾農業改良普及センターが実施。試験場所は木祖村小木曾(標高970m、黒ボク土、埴壤土)。中苗、機械移植。入水は5月17日、代かきは5月21日、移植は5月25日。1区7a、反復なし。

調査方法：移植44日後(7/8)に50×50cmの枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は1カ所の調査を行った。

(8) ホットコンビフロアブル

ア 平成 22 年に農業試験場で実施した試験では、移植直後～ノビエ 2 葉期処理で、ノビエ等一年生雑草から多年生雑草まで高い除草効果が認められた(表 15)。薬害は認められなかった(データ略)。

表 15 ホットコンビフロアブルの雑草防除効果^{a)} (平成 22 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{c)}	ホタル イ	(オモダ カ) ^{d)}	(クログ ワイ) ^{d)}	合計
ホットコンビフロア ブル	+0日(5/14) 500ml	0	0	1	t	(83)	(25)	t
	+9日(5/23、 ノビエ2葉期) 500ml	0	0	t	0	(0)	(0)	t
(比較) トップガン Lフロアブル	+5日(5/19) 500ml	0	0	t	0	43	0	t
(比較) ソルネット 1キロ粒剤→ザーベ ックス DX 1キロ粒剤	+0日→+20日 (5/14→6/3) 1kg→1kg	0	0	t	0	0	0	t
無処理	—	13.5	0.1	25.0	40.7	(0.6)	(0.5)	79.3

a)、b)は表1と同じ。

c)コナギ、アゼナ、ミヅハコベ、キカシグサの合計。

d)塊茎埋め込み試験。オモダカ、クログワイは適用登録外のため合計から除外。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高340m、細粒グライ土、軽植土)。品種は「あきたこまち」。中苗3本植(22.2株/㎡)。代かきは5月9日、移植は5月14日。1区7.2㎡2区制。

調査方法：移植40日後(6/23)に50×50cmの枠サンプリングにて調査した。

イ 平成 26 年に小諸市の現地ほ場で実施した試験では、ノビエやホタルイがやや残存したが、初中期剤として実用的な除草効果が認められた(表 16)。薬害も認められなかった(データ略)。

表 16 ホットコンビフロアブルの雑草防除効果^{a)} (平成 26 年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量(/10a)	ノビエ	一年生 広葉	ホタルイ	合計
ホットコンビフロアブル	+3(5/23)	500ml	13	0	10	9
(比較)イネキング1キロ粒剤 ^{c)}	+3(5/23)	1kg	75	0	16	23
無処理	—	—	3.7	3.6	24.2	31.5

a)、b)は表1と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：佐久農業改良普及センターが実施。試験場所は小諸市滝原(標高750m、洪積土、壤土)。中苗、機械移植。

入水は5月12日、代かきは5月15日、移植は5月20日。1区7a、反復なし。

調査方法：移植後55日(7/14)に50×50cmの枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は1カ所の調査を行った。

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

普通作物の新規農薬等の効果試験、平成 22～26 年度(2010～2014 年度)、協力研究